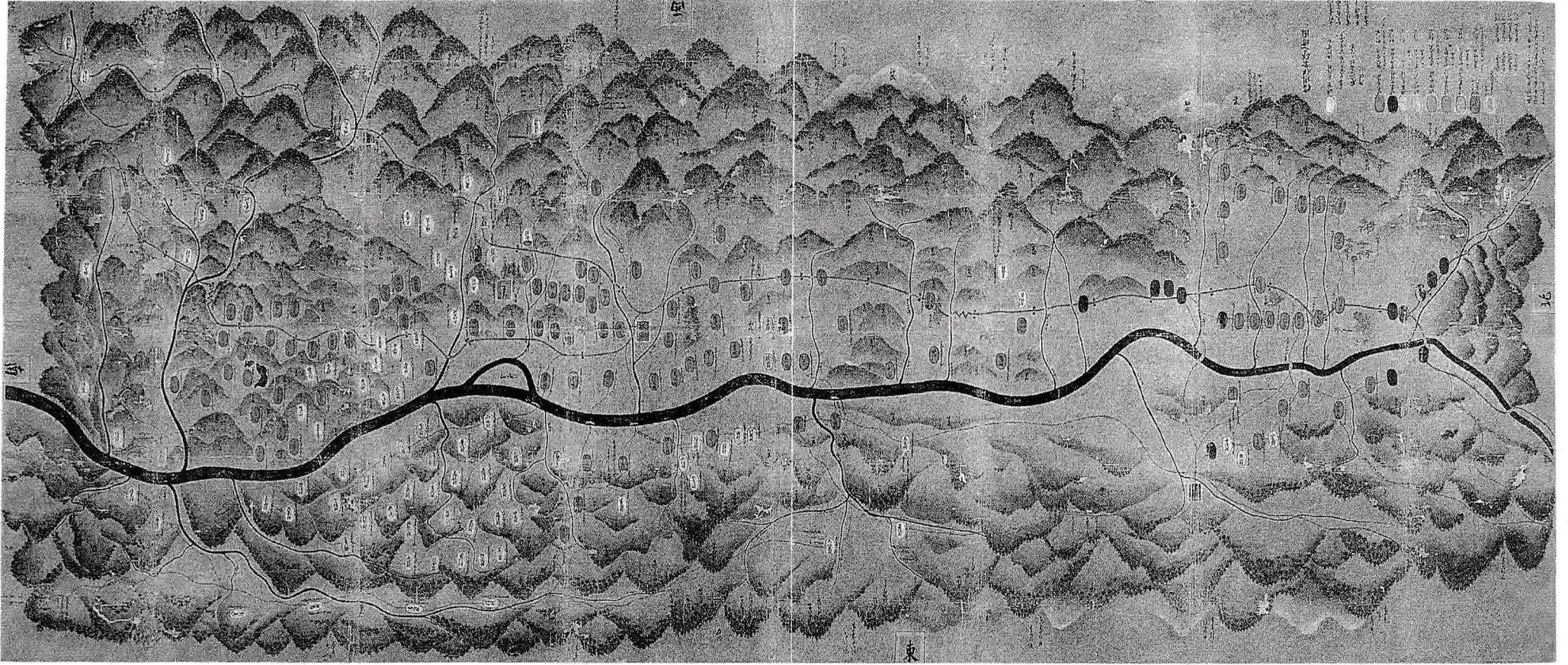




「口絵 信州伊奈郡之絵図」  
(伊那 38(8) (747)、1990、中井博著、国立国会図書館)

信州伊奈郡之絵図

## 口 絵 解 説

### 信州伊奈郡之絵図

正保元年（一六四四）江戸幕府は諸国に命じて国や郡の絵図と郷村帳を提出させた。信濃国では飯山・松代・松本・上田・飯田の五大名が分担しまとめて提出した。これが「正保四年信濃国絵図」である。

本「伊奈郡絵図」は飯田藩主脇坂安元公が信濃国絵図の絵図元であったことや、絵図に示されている領主や代官の任免や没年月日に照らして見て、正保の絵図の下絵もしくは副本と見ることができる。

中央に天龍川を描き、その両側に上下伊那の各村が領主別に色分けされ、村高や所領分布が一目できるように配されている。縮尺は凡そ四万分の一である。更に、伊那・遠州・秋葉の各街道の道程や一里塚・番所・峠。又天龍川の舟渡し等の交通事情を見ることが出来る。芝山・草山をはじめ各樹種の山林資源が表されている。御樽木出川や渡場、

川次番所に当時の樽木貢租も伺うことができる。尚、詳細に見ていくと様々な情報が得られて楽しめる。ともあれ最古の郡絵図であり、江戸時代初期の伊那郡を大観できる貴重な資料といえよう。

本絵図は寛文十二年（一六七二）脇坂氏の移封に伴い、播州（兵庫県）龍野へ移された。

市村威人先生は、昭和十一年、脇坂氏の調査で龍野市へ赴き、親しく本絵図の模写をされた。現在下伊那教育会に所蔵されているものがそれである。

奇しくも、本絵図は昭和二十七年東京の某書店より売りに出され、市村先生は市当局へ働きかけ、そのご努力により購入することが出来、再び飯田の地へ戻って来たのである。

今回、飯田市美術館へ移管されたのを機に大補修を行い、特別陳列に供した。

（飯田市美術館 中井 博）